

# DJANGO'S SWINGIN' GUITAR

僕らのスウィングギター

文：関野淳

## ◎ジャンゴが愛したSELMER / MACCAFERRI

セルマー／マカフェリ。ジャンゴが愛してやまなかったギターである。  
ひと目見たら忘れられない特徴的なフォルム、そしてそれ以上に個性的なサウンドは、  
ジャンゴの音楽、ひいてはジブシー・ジャズに欠かせない存在となった。  
欧州ならではの格調を漂わせるセルマー／マカフェリ、その優美なしらの秘密を探る。



▶ジャンゴ本人が実際に使用していたモデル・ジャズ＝503。1940年頃から使用していたと思われる。

▲1938年頃のフランス・ホット・クラブ・クインテット。ジャンゴ（右から2番目）が使用しているのがオーバル型のサウンドホールを持つ後期型のモデル・ジャズで、弟ジョセフ（右端）とユージン・ヴィー（右から4番目）のふたりのリズム・ギタリストが使用しているのはD型のサウンドホールを持つ前期型のモデル・ジャズ。ただし、ここでジャンゴが持つのは、オーバル型、14フレット・ネック・ジョイントという後期の仕様を備えながらも、指板が1張便のみ延長されるという前期の特徴も残すことから、過渡期的なものと思われる。

ジャンゴ・ラインハルトが愛したセルマー／マカフェリのモデル・ジャズ（Le Modele Jazz）は、1932～52年にかけてフランスで製造されていた。アメリカでは、1930年代に、ギブソン社を中心としてスティール・ストリングス／アーチトップ・ギターが現在の形へと発展していったのに対して、フランスでは、アメリカ製楽器の影響を受けない状況の下、独自のギター進化がなされる。それは、ジャンゴに代表されるジブシー・ジャズと呼ばれるギター・スタイル／サウンドとともに、ヨーロッパに広がっていった。当時のフランスでは、クラシック・ギターと同様に、セルマー・ギターが最もポピュラーなものとして人気を博し、やがて訪れる、音楽スタイルと一緒に輸入されたアメリカ楽器の隆盛、そしてギターのエレクトリック化という変革期まで、一時代を築くのであった。

### ジブシー・ジャズ・ギターの誕生

セルマー・ギターを開発したマリオ・マカフェリは、1900年イタリアで生まれ、10代の時にギター演奏者／製作者として有名なイーゴ・モッツァーニの下で、その両方について学ぶ。その後、演奏者となり各地で演奏活動を行なうようになったマリオは、29年にイギリスに住居を構え、やがてプレイヤー／ギター講師を行なうかたわら、既存のクラシック・ギターを改良した独自のギターの試作を始める。それは、大胆なカットウェイ、アーチトップ・ギターのようなブリッジを備えた彼

Photo: Cite de la Musique